

# 環境芸術論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：環境芸術とは、屋内外を問わず人間を取り巻く空間と環境そのものを作品とする芸術の総称である。また、鑑賞者の参加や関わり方も作品を形成する要素とする。本講では、風景と空間、芸術と地域性、芸術による空間再生、空間プロデュースなどの観点から具体的な作品事例に触れ、それらを通じて環境芸術の諸概念と多様性について学ぶ。

■**到達目標**：①環境芸術の作品事例や制作手法について理解する。  
②環境芸術に係わる諸概念について学ぶ。  
③芸術と地域性の観点から、現代社会における環境芸術の役割について考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 良（1～8回目） 上遠野 敏（9～15回目）

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス／環境芸術とは
- 第 2 回 場所から導かれる環境芸術の概念 その1
- 第 3 回 場所から導かれる環境芸術の概念 その2
- 第 4 回 実例から学ぶ その1
- 第 5 回 実例から学ぶ その2
- 第 6 回 環境芸術と風景
- 第 7 回 建築と芸術
- 第 8 回 ショート課題
- 第 9 回 自然神の現れと神々のお供え
- 第10回 日本の美意識から探る1 仏教の宇宙概念
- 第11回 日本の美意識から探る2 遊興の心
- 第12回 アースワークの地平
- 第13回 ドイツから学ぶ事・エムシャーパーク構想
- 第14回 アートによる地域遺産の活用法
- 第15回 環境を映す現代アート

■**教科書**：授業内にて配布または紹介する

■**参考文献**：「ランドアートと環境アート」ジェフリー カストナー 編・PHAIDON、「デ・アーキテクチャー—脱建築としての建築」ジェイムズ ワインズ・鹿島出版会 など

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎		左記を総合的に評価する
授業態度	◎	◎	◎		
発表	◎	◎	◎		2/3以上出席すること
出席	◎	◎	◎		
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：